明治四十四年六月一日納本發行（毎月一回一日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第八巻第六號

業はよしちさしとも
友はよしひくしとも
そをばゆめさげすむな君
止まざればげにまことのつとめ
たゆたへる露のまたまを
結ばれしそのしら玉を
輝く日よりさへぎりて
まもりあらずやひなぎくは
まもりあらずや小さき花かげ

——ウオルズ、ウオイズ

日本基督教女子青年會發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第八巻第六號

目次

初夏の生活（一―二頁）　小此木まつ子
日本基督教女子青年會夏期修養會に就て　記者
現時の印度婦人（三―六頁）　ミス、ドラ、マヤ、ダス
印度見聞記（六頁）
斯うしておけばよかつたと思ふ事（七頁）　井深花子
基督教各派の同盟（十二頁）　記者
十人の孤兒と共に起居する若き主婦の朝務め（十一頁）
歐米女學生の美風（十三頁）　河井道子
信仰雜話（十五―十九頁）　白井胤祿
美しき少女の幻（十九―二十四頁）
急せれる友に（二十頁）　友より
友（二十頁）　紫嵐
近世美術（二十二―二十四頁）　大森安仁子
基督教生活の情調（二十五頁）　柏井生
會の消息（三十頁）　編輯局

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する雜誌也。
一、「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢、一部郵税共金五錢とす。
一、日本基督教女子青年會は女子の新生、社交、智識、靈性上の發達を圖るための團體也。
一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　井深花子
副委員長　岡見慶子
記録書記　サラ、エリス
會計　フィシヤー
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子
萬國學生基督教同盟會委員　宮川すみ子

東京在住委員
エ、ピー、ウエスト　井上友子
平野濱子　鈴木歌子
中島小春　三谷民子
安井哲子　小此木まつ子

地方在住委員
大阪　ケー、ツリスツラム　京都　佐伯小糸
京都　アントン　名古屋　ウインウイルソン
廣島　エヌ、ピー、ゲインス　神戸　デフナレスト
大阪　荒木幸子　函館　エム、アブラウンロー
日本基督教女子青年會幹事　エー、シー、マクドナルド
同副幹事　エム、エル、マシウ
エム、エス、ケエル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

母と子　「ミレー筆」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本文近世美術參照

フレンゾの像　「ミカエロ、アンゼロ彫刻」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子 第八巻第六號 （明治四十四年六月一日）

初夏の生活

小此木 まつ子

新綠の陰美くしく見る物毎に何となく活々として居る樣な昨日今日期せずして私共の心も輕く元氣も常には倍して來る樣に感じます。曉方の美を賞する機會は滅多に得ませむけれども、夕食後など、先づ晝の間だけの仕事は殘り無くすまして、晩の讀書にかからうといふ前などは特に此自然の活氣と靜寂とが、何ともいへず融和して居る樣にこころづきますのは、お互だらうと存じます、此ういふ時候になつて來て、常よりは一層と私の感じますことは、此實に染めた程青い樹々の樣に、または心安さうに咲いてゐる野の花の樣に活きた、生氣に充ちた、愉快な心持で人間も始終居ることが出來たらといふ事でございます。

私は此間或ところで「樂しい生活」といふ事について大層よいお話を伺ひましたが人生何が仕合せであるかといへば、それは申すまでも無く絶えず心の中から溢るる喜びの中に住む事であつて、それを以て人生の目的と說いた人さへある位です、然し此事が如何に言ふに易く行ふに難いものかといふ事は私共誰でも經驗しない者はございませむでせう。自分の氣分を爽かにして樂しく暮すといふこんな容易さうな事が何故さう難しいかと考へて見ると一つには感謝の念が足りないが爲、又一つには自分を忘れる事の出來ないが爲ではありますまいか。

感謝の念といふ事は東西の聖賢の共に敎へられたところで、私共は少さい時から隨分と聞いて居り、又基督敎に依て一層深く感ぜしめられて居るのですが殘念な事には兎角つまらぬ不平を起しては暫時の時でも神の惠世の惠人の惠に謝する事を忘れます、始終感謝の念さへも持つて居たならばたとへ如何樣な境遇に住む人でも、何か心から有難いと悅ばれる點の無い人はございますまい。昔も今も歐米にても我國にても、實に悲慘な生活をしながら、尙其暗黑面を見捨てて美くしい悅びの念に溢れ、人生の敎と

自然の美とに充ち〳〵て此世を辭した人も少くはありませむ、何が貴く清いものであるといつても、凡そ此れ等の人の生涯ほど私共に一種の深い懷かしさと麗かさとを感ぜしめるものはありませむでせう。まことにさる田舍詩人の歌にもある樣に唯我々が眼をあげて見さへすれば、何處の山の端、水の邊にも神の御手のあらはれて居らぬところはありませむ。何處如何なる人の身の上にも意味ある惠みのかゝつて居ないのは御座いませむ。

それからまた己れを忘れて他と融和するといふ事が思ひの外にむづかしいもので、切角とよい仲間の中に入れられ自分の心掛一つでは隨分と得難い寶を得らる可き境遇に居ながら「自我」といふ事を絶えず念頭におくが爲めに何者をも得ずに終ることは我々一人〳〵の上に毎日の樣に、毎日幾度といふ樣に起つて居るのではありますまいか、勿論、或場合には「自分」といふものを確に認めて、自覺してかゝらねばならぬ事があります。けれども其時の「我」と此時の「我」とは決して同一のものではございませむつまらぬ感情上の「我」は忘れることが出來る程幸です。私共女子にとりては此少さい「我」が中々勢力の強いもので容易に退却してくれませむ。從て他人と一致協力して大なる目的の爲に働くといふ事が困難になつて參ります。しかも此弊も我々の心が廣まり、多く世間を見、多く仕事を手にかける樣になれば、段々とれてゆく事だらうと思ひます。大いなる事の前に己れを忘れるといふのは實に古武士の魂で又昔から賢婦烈女と歌はれた人の心持です。今の世では社會の狀態も變り仕事の有樣も改りましたけれども、其魂、心懸けの缺く可からざる事に於ては何の異りもありませむ。西洋の教に犧牲と敎へられてあるのも要するに、是に他ならぬので、彼國々の婦人が、協力して働らき樂しむで居る樣はまことに羨む可きものです。我國で私共女子が大勢集つた場合に仕事も遊びもあまり思はしく進行せぬのは唯此つまらぬ自我が横行してゐるからではありますまいか。極々手近な例について云へば夏期修養會の樣な場處でも、お互が大なる修養の目的を眼の前に置いて、つまらぬ少さな我を忘れ、心をあはせ力を協せて學び遊むだならば、其利益と愉快とは決して孤獨に住む人の味ひ得ないところだらうと存じます。

まことに天も地も共によろこび共に榮える樣な此

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日頃を、人も擧つて心よりの希望と歡喜とに迸り、ローウエルがいふ「譬ふるに物も多き六月の空」に恥ぢない起臥をしたいものだと存じます。

日本基督教女子青年會 夏期修養會

日本基督教女子青年會第六回修養會は、今年も亦七月中旬相州鵠沼に於て開かれます。前五回の修養會に臨まれし姉妹方は、必ず講演や諸種の集會に由つて、宗教上の智識を啓發せられ、愈々信仰を養ひ、主耶蘇基督の恩寵のいや深きを感じ、身を献げて之を愛し、之に事ふるの熱誠を加へられしのみならず、多くの朋友と知り、交りを結び、友情を培ひ見聞を廣め、且つ美はしき自然の中に、これ等の清き一大家族と共に、宗教的生活のいかなるものかを味はれた事を喜ばるゝことで御座いませう。主催者一同は本修養會が多くの姉妹方の興味と同情とを意外に多く惹き起し得たるに勵まされ、講師の撰定と諸般の設備とに注意し、今年の修養會は更に一層有益に致し度いと存じて居ります。願くは御知友をも御勸誘の上、奮て御出席の程待ち上げます。

本會の趣意書並に諸般の事項は別に印刷致してありますから、御入用の方は東京麹町區三番町四一番地基督教女子青年會宛御申込みを願ひます

◎會　期

明治四十四年七月十二日(水曜日)夕より七月十九日(水曜日)午前まで

◎會　場

相模國鵠沼東屋旅館

東屋は同地第一の旅館でありまして、諸般の設備行き屆き、庭園廣く、運動場の設けもあります、數歩を運べば直ちに海邊であります。

此處に行きますには、東海道鐵道で藤澤停車場に下車し(急行列車は停車せず)其の構外に設けらるゝ江の島電氣鐵道の藤澤停留場から片瀬行電車に乘り鵠沼停留場で下車せらるれば、之より東屋までは約十一町であります、人力車もありますが、徒歩する方の爲めには手荷物を運搬する爲め、東屋から特に人夫を出しておく筈であります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎費　用

會費　金六十錢　一日十錢の割
滯在費　金六十錢　一日分
寢具一切は用意してありますが、敷布枕布等は各自携帶を願ひます

◎講　師　（イロハ順）　目下依賴中

今井壽道君　本多庸一君　小此木松子女史
川添萬壽得君　長尾半平君　井深梶之助君
井深夫人花子　鵜澤總明君　山室軍平君
安井哲子女史　山田笑子女史　松永敏雄君
三谷民子女史　元田作之進君　其の他

◎委　員

贊成委員　三輪田眞佐子女史　山脇房子女史
津田梅子女史　嘉悦孝子女史
委員委員長　河井道子女史　三谷民子女史
長谷川喜多子女史　和久山夫人駒子
川島芳子女史　鈴木歌子女史
ウエスト女史　世良田春子女史
二宮貞子女史　世良せん子女史
幹事　マシユウ女史　小橋三四子女史

女子寄宿舍

基督教女子青年會は
小石川區水道町二十八番地及び
牛込區納戶町四十五番地
の二ヶ所に寄宿舍を設け女學生諸子の爲めに及ぶ限りの御世話を致して居ります
右の寄宿舍は世良田春子、大西絹子の兩氏が親しく監督して居ります此の帝都に家庭又は適當の保護者のない女子をして眞の家庭に於けると同樣の勉强の出來る樣にするのが青年會寄宿舍の希望であります
入塾希望の御方は願書を監督者世良田春子に宛てゝお送り下さい

寄宿舍委員長　新渡戶まり子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現時の印度婦人

ミス、ドラ、マヤ、ダス。

△十八世紀より二十世紀に飛ぶ過度の時代

諸姉は已に新聞紙上に於て、現代印度の新潮流—近代的國家思想、及宗教上、社會上の舊習に關する改新論などに就て御承知になつて居る事と存じます。是等新聞紙の報ずるところは殆ど皆事實の眞相であつて、私共、印度の者は實に、そは〳〵した落つかぬ過渡の時代に遭遇して居りますのです。實際を申しますと、此地の人の大部分はまだ第十九世紀否十八世紀頃の考で居るところへ持つて來て、或小部の人だけが、此忙がしい現世紀の頭を持つて居ります、然し、此二十世紀の方に屬する人の數が、だん〳〵殖えて來て將來の印度といふものを豫言する樣な傾向になつて參りました。

斯う申して參りました此事實は、印度全體に就ての事ではありますが、直に引いて今日の印度婦人の狀態と申す事も出來ます。今假りに全印度一億五千の婦人を大別して舊派と新派とに分けて考へて見ますと、第一の舊派に屬するのは、ヒンドゥー教徒、モハメット教徒、シク及拜火教の者で、是等は心安く十八世紀同樣の世界に住むで居るのです。そして第二派の方に屬するのが將に來らむとする新時代の先驅とでも云ふ可き者でせう。

△「船」の理解に苦しみし女學校生徒

つい先日、私は或市立女學校の生徒に一場の話をした事がありました。此時の聽衆の大部分は中流以上の家庭の子で、敎師は師範教育を受けたモハメット宗の婦人でした。話の中に或船の大きさを說明しやうと思つて私は此町に昔からある古い王城の大きさに比べましたところが生徒の中には唯の一人も其王城のあるといふ事を知つて居る者さへありませむでした。それから此町には幾つも公園がありますから其中の一つて、町中一番名高い公園の例をひいたのですけれども、今度も亦一人でも解つたといふ顏をした者はありませむ、仕方がありませむから、先生に「一體あなたの生徒の知つてゐる所といふのは何處でせう」と訊ねて見ました。先生が何かと考へた末、此町にある恐ろしい大きなモハメット敎の寺院を見ただろうと生徒にきいたのですが驚いた事には其宗派の子供達すら、其寺を見た事も無いと云

ふのでした。

△幽閉に等しき婦人の生活

それにしても此等の子達は學校で兎に角、一と通りの算數と、自國語の簡單な讀み書きとを學むで居りますのです。但し學校といつても、ほんの土壁塗りの一間きりの建物で一寸した明き地がついて居るばかりでそして女生徒達はいづれも市の所有にかゝる密閉した馬車で學校へ送られるのですが、こんな憐れな有様でも尚、此子達はつまらぬおしやべり、衣服の心配、赤子の世話の外に多少の興味を持つ樣にはなります。今より七年程前の調査によりますと百四十四人の女の中唯一人だけが、多少文字を解する割合になつて居ます。其殘りの百四十三人の中の大部分は比較的自由に出入りも出來る下層社會の婦人でせうが其中の幾部分は稍上流の者で、全く戶內に押し込められて一切世間は見せられず、讀み書きの樂しみさへ、與へられて居ない婦人なのです。

△早婚と哀れなる年若き寡婦

此婦人の幽閉と、無教育といふ事は古來より傳はる惡習慣の二ツですが、第三番目に來る恐ろしい惡風は年少者の結婚及此に續いて起る年少寡婦といふ事です。千八百九十一年の合議案の出る迄は、僅か十歳の母親を見る事は珍らしくありませむでした。此案に依つて、滿十二歳を以て最少年限とせられたので我々は非常に感謝した次第ですが、それでも尚十年前の統計によれば二千五百八十九萬餘の寡婦の中、三百九十一萬餘は十五歳未滿の寡婦と出て居ります。此恐ろしい早婚の弊はモハメット教徒よりは却てヒンドゥー教徒の中に多い樣に見受けられます

△覺醒したる婦人

此等は實に今尚前世紀の社會に住むで居る舊派婦人の狀態ですが、半面には、現世紀の即新時代の人が種々の運動を始めて、非常な困苦と戰つて居ります、是等の人々の中には隨分忍耐も仕切れなくなりかけて居るのもある樣です。先日私がボンベーに居ります間、其地の或ヒンドゥ婦人の催しにかゝる園遊會に招かれて參りました。場處は印度婦人會場といふやうな所で、テントを張つた廣庭でお茶が出ました。そしてあちらこちらの小テーブルを圍むで實に立派に着飾つた印度婦人が出席して居り、馬車自動車であとから〳〵とどん〳〵參集されるのが、皆印度婦人でした。中には、やはり帳を深く垂れた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

馬車の無いではありませむでしたが、とにかくに馬車自動車が、さういふ席に出る樣にまで變つたのです。お茶のあとでは音樂などがあり、或婦人はピアノを彈ぜられました。此種の集會はアルハバッド、カルカタ其他の地方に開かれつゝあるといふ事も聞きました。

△**教育ある印度婦人の働らきの方面**

北印度には現に二名の婦人記者がヒンドスタン語の週刊雜誌を發行して大層廣くよまれて居ります。又同じく此地に上流婦人の爲にも設けられた女學校があり、諸地方から入學者が集つて參るさうです。視學官といふ者にも婦人か數名なつて居り、女醫の數も決して少くはありませむ。

△**上流婦人の留學**

更に又上流の女子達は勉學の爲めに他國へ留學します。丁度先月も北印度で最大きい或州の王子の結婚かありましたが、其王妃となられたのは、やはり印度の王女でこれはパリで仕込まれた人でした。先月私は暫くの間或印度王族の人と同車で暫時旅をしましたが、此婦人は英語を大層流暢に話し其態度作法等が如何にも具はつた立派な人でした、後に聞きましたらば、英國ケムブリッヂの某女子大學で修學されたのなさうでした。

△**婦人の地位を高むるに與つて力ありし基教**

此新時代印度婦人の傾向は先づ幽閉の場所を出でて男子同樣の教育を受け男子同樣の社會的地位を得たりといふのにあるのです。然しこれは、唯傾向といふに過ぎず折々此種の發展に向つて突進する代表者が現はれるといふ迄の事です、眞の着實なる進步は中々遲く、今の印度婦人が舊來の宗教に拘束せられて居る間は、此進步は決して速にはならぬ事でせう。誰にしろ、物の解る人が見ればヒンドゥー教は始めは一神教であつた又モハメッドにしても其教義を建てる動機は正しかつたといふ事は認められるでせうけれ共此兩教が婦人の地位を高めたものだといふ事は誰かいふ事が出來ませうか。此に多言を費す迄も無く、モハメット宗の多妻主義及婦人賣買の習俗を聞いただけでも充分に其消息をうかゞふ事か出來ませう。

今日迄の經過に依れば基督教が世界の婦人の爲になしたる所は實に前二教の比ではありませむ。印度に於ても、第一に寡婦の救護を始めたのは基督教で

した、女兒の殺戮を妨けたのも基教なれば、婦人を屋内より引出して、男子と殆ど同等の教育を與へる樣にしたのも、やはり基督教です、勿論此紙面では教義にわたる議論をするつもりではありませむ。單に社會事實の上より見て基督教を在來の印度諸宗教と比較したまでの事で、現に見えて居る結果に依て判斷したに過ぎませむ。

△基督教徒の義務と責任

斯くの如くにして、開發せられつゝある印度の他宗派の婦人に對する義務と責任とは我々基督を信ずる印度婦人の双肩に落ちて來るわけなのです。實に我々信者が基督教に負ふ所は深く且大なるものであると同時に、我々の生れた故國に負ふ所も決して少くはありませむ。自分達の信仰の中に或ものを認め其恩惠に浴した者が、之を同胞の姉妹に傳へ其發展の手引きとする事は自然の理だらふと思はれます。現代日本の婦人方の傾向といふ樣な事については私はよくは存じませむ。然し、國の印度であると日本であるとを問はず、私共、主を信ずる者の唯一の務めは「他人の爲に働き盡す」といふにあるのではありますまいか。

印度見聞記

ドラ、マダ、ダス孃の「現時の印度婦人」は誠に有益な寄書で定めて諸姉には興味深く御覽下さる事と存じます。今餘白をかりて、私の友人が昨年印度へ旅行して歸つた當時の話の一節を掲げてダス孃の話の興味を更らに助けたいと思ひます。

私の參りましたペラ州*並にセランゴール州*は、馬來聯邦國中*の二州で、シンガポールから汽車で一晝夜程かゝる半島の中部の地で御座います。此地は半島中の最高峰や、海拔三千呎から七千呎に至る山脈が南北に長く延びて居ります。

先づ我が國のよりは小さい、綺麗な單線の汽車に乘りて、植物園の溫室で見て居りましたものゝ、幾十倍か大きな植物が、處かまはず繁茂して居るのを窓から眺めながら參りますと、此度は赤や青に彩られた布の中から、目計り出して覗いて居る邊瞭然とした女や、チヨコレートよりも黑い顏の、シイレとか云ふものを噛んで、口中を眞赤にして居る土人や、洋服の支那人や、西洋人の姿が見えましたり、或は百呎以上もある大樹が太古の樣に立つて居る大森林中の、花崗石の崖下を通る時等は、何となく良い氣持では御座いませんでした。叔父が幾年前には群象が森林中から出て來て、汽車を殺したとか、虎が人を攫つて行つたとか話して居りましたが、成程日光も通らぬ大森林中に汽車が通る毎に、象や、虎や、毒を塗つた吹矢を持つた人喰のサカイ人が出て來はしまいかと、胸を跳らせた事も御座いました。

斯うして漸く森が盡きた時、僅か計りの田畑の細道に可愛い撫子樣の花が咲き誇つて居つて、其の上を黃や白の胡蝶が飛んで居るのを見た時には、其對照が誠に面白いと思ひました。同時にホツト息をつきました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯うしておけばよかつたと思ふこと

井深花子

△**私の過去は感謝しなければならぬ事斗り**

私の青年時代を省みますと、こうしておけばよかつたと思ふより、こうより外ならなかつたのだと思ふので御座います。それがまた工合よく回轉してきて居りますので、感謝しなければならない事斗りで御座います。

例へば私が今十七八になつて考へて見て、どこの學校に入らうかと思へば、やつぱり私は人間を作る事に重きを置く宗教學校を撰ぶて御座いませう。そして私は宗教學校に學んで參つたのです。

△**十二三の頃の決心**

私はどう云ふ刺戟からで御座いましたらうか、今から考へますと、隨分早いやうですが、十二三の頃頻りに自活の道が立てたいと思ひ初めました、今でもはつきり覺えて居ますが、こうしてたゞ人に養つて貰つて居るのは、丸で天下の米食蟲同前である、とよく云ひ云ひ致しました。そこで親戚に京都の絹織りがありましたのを幸、その方に身を寄せて暫らく絹織りを習はうと思ひました。その後宗教を聞き初めましてまた考へが一轉し、どうしても學問しなければならないと思ひ初め、どうかして學校に入りたいと願つて居りました。そして十九の時遂に神戸女學院に學ぶやうになりました。

△**最初の靈的生活**

私はこの時から私の將來の發展に大變有益であつた英語を習ひ初める事が出來ましたが、それよりも何よりも有難い事には、私と云ふ人間の土臺を作られたので御座います。即ち初めて靈的生活に入つたので御座います。そして今迄は普通の女の考へる樣に、人の爲めにするよりも、先づ自分が偉い人になつて見度いと考へて居りましたものが、この時からどうか自分は世の中の必要に應じて働らき度いと云ふ念が盛んに起つて參りました。それ故女學院を卒業した時も、來學期から何々の學科を受持つて、自

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

活しつゝ、更らに高等科に學ばうと云ふ約束迄出來て居たのですが、丁度鳥取の宗教學校に教師がないと云ふ事になり御存じのあの山國故、誰れも行く者がなかつたのです、私は勉强もしたかつたのですがまたこの必要に應ずるのも神の聖旨である樣に思はれ、祈りに祈つて、終にその必要に應じやうと決心したので御座います。そこで山奥に初めて赴任して參りましたが、これがまた思ひ掛けなくも私の發展の道が啓ける緒だつたので御座います。

△山奥への赴任

この學校に或時米國から宣教師が來られて、說敎をせられました。そこで私はその通譯を賴まれたのが緣となつて、この方といろいろ親しくお話しする樣になり遂に米國に行かぬかと云ふ事になりましたその時は丁度一身の問題も起つて居りましたし、熟々考へて、折角外國で學んでも、もし將來義務が盡されぬ位なら、行かぬ方がよい。行くとしたらどこ迄もその義務を完うする丈けの覺悟が立たなければならない。そこで一心に祈つて神の聖旨を窺はうと致しました。然し私は祈りに明瞭と答へられた事がありませんので、この時も迷信のやうですが、この洋行に就て三つの難事がある、その中の一つでもし叶はなかつたならば、神の聖旨にあらずと考へたのです。それは先づ第一旅費、第二が健康、第三が入學試驗の準備であります。然るに一番出來さうにもなかつた旅費なども思ひ掛けぬ親戚から用立てやうと云ふ事になりまして、終に留學の運びになりました。

△留　學

米國ではかのメリー、ライオン女史の建てたマウント、ホオーリヨーク女子大學に學びましたので、當てメリー、ライオン女史がこの學校に深く植え付けられたこの校の殆ど標語ともなつて居る「他人の最も厭ふ所に行けそして他人の最も嫌な仕事を執れ」と云ふ美しい主義の下に薰陶せられ、私の品性陶冶の上にはこよなく有益でありました。且つこの校の精神が神戸女學院で養はれた精神と少しも違はなかつたので、私の信仰は育ちこそすれ、少しも傷けられる事はありませんでした。

△私の處世に對する覺悟

私は常に私の行途に二つの道が横つて、何れを取らうか躊躇致します時は、何時でもむづかしい

道を撰ばふと云ふ事を心掛けて居りました、これは私の處世に對する覺悟で今もなほこの覺悟を續けて居ります。私の過去に餘りこうしておけばよかつたと思ふ口惜しさがないのも、或はこの決心の爲めであるかも知れませぬ。たとへ困難な處に居ても、それは自分の望む所である、幸にもその困難の道が幸福にと啓けて來れば、感謝してその惠みを受けると申す事丈けが私に出來たからで御座いませう。お尋ねに答へる事は出來ませんですが、これもまたこれから世を渡らうと云ふ若い方々の何かの御參考にもなりませうかと存じまして。

若き主婦の朝務め

十人の孤兒と共に起居する

岡山孤兒院にて　榮子

昨日は大掃除、其の勞れて今朝は峠の天理教の太鼓は聞かなんだ。紡績の笛に驚かされて雨戸をくると、外はまだうす暗く、夕顔の花が白々と目につく。

冷水摩擦をして衣を整へ、筒袖の上着を被つて「しめのさん」と呼べば「ハイ」と直ぐ目を醒ました。米を磨ぎながら釜に水を入れさせ、柴を折らせ、マッチ、團扇の用意もさせる。燃し付けてお湯の沸く迄にはお麥も洗つた。七輪に火を取つて、昨日ゆでたお菜をみに味噌汁を作る。しめのさんは押入や棚のお掃除、私はお晝の煮ものゝ仕度をする。御飯が吹く、大鍋の下に火を移し、お茄子を湯出る。室の方ではお姉さん（名はれい子、我が家での年長者です）が蚊帳、布團を疊んで、としさん、てつちやん、二人で押入に仕舞ふ。ハタキをかけて貰つて、戸、椽、敷居のふき掃除。外はきよちやん、はるちやん綺麗に箒目を立て、便所、ランプの掃除はつれちやん、いつちやん、食堂はいしちやん、押入をすました、しめのさんは、お膳立をして居る。其の間にお姉さんは六人の髪をゆつてやる。「御飯頂戴」とあちらからも、こちらからも云ふ。中に居る大きい子がよそつてやる。

七時の朝集合（大人のみ）には僅か五分、大急ぎで私は御飯をすませ、煮物の加減はお姉さんに頼んで、猫のごはん、あと片付け等を言ひおいて、子供等のまだまだすみ相にもない様を見ながら、鐘の合圖に會堂に行く。今日は外部の報告少なく、本立教師の哥林多後書八章の講義があつた。

一時間經つて歸つて見れば、皆學校へ行つた後、家の内外を見廻つて臺所の布巾を直したり、横になつたものを立てたり、溝を掃いたり、七輪に炭を足してゴマをいる、洗濯する。參觀者二人。お豆腐を買つてると「お母さん只今」と一年のいしちやんが歸る。膳立を手傳はせて皆の歸りを待つ間に新聞を讀むいしちやんは次の室で猫を相手に獨り言、暫くすると「お母さん只今」と次ぎ次ぎ歸る。「サー御飯」と一所に坐る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

基督教各派の同盟

五月六日神田靑年會館に於て、基督教各派の同盟會が開かれました。これは基督教徒は勿論、一般の人々も特に注意を拂ふべき問題でありませう。從來教會の宗派別は基督教界の一致を妨げ、その勢力の徒費を招いた事が少なからぬのであります。然し基督教信徒にして、彼れ等が信ずる如く、國に盡す使命を自覺したならば、この同盟會は必然行はるべきものでありませう。玆にタイムスに掲げられたる同會に關する記事を摘記して見ますれば、

總會に於ける辯士は凡て熱心に聯合を歡迎せられ、日本基督教の有力なる牧師植村正久氏は、神と基督に對する我れ等の關係は一ならざるべからずと說かれ、組合敎會の牧師海老名彈正氏は明治の始めに於ては、たゞ一つの統治者にまします上に對し率りて、大權を奉還し、皆一致協力して新日本を成したる如く、我れ我れも我が國民を救ふ爲めに、大ゐに主基督に於ける一なる信仰によりて、精神に於て、靈性に於て、心に於て一體とならざる可らずと述べられ有名なる美以敎會宣敎師コーツ氏は古代基督敎信者が、基督の敎に對する精神上の修養經驗の深刻なるが爲めに、其の共同一致を破ることなかりきと說かる。小崎牧師、平岩博士、其の他の辯士も同様の主題を以て聯合に賛成せらる。然して目下の先決問題は聯合の可非にあらずして、監督、長老、組合、美以の如き、大勢力を有する敎會が、如何にせば快く聯合するに至るべきかの方法を考ふるにあり

第一、歷史上制度の上より見るに、先づ監督敎會は此の聯合のために從來守り來れる監督制度を廢するを得べきか。長老派、組合派美以派の如き多大の勢力を有する各派が、從來敎會史上の慣例の如く思ひ來れる制度の前にひれ伏すことをなしうべきか。

第二、敎理上の意見は如何と云ふに、一般信徒は或は斯く聯合して凡ての牧師が一樣に立ちて道を宣ぶる大なる講壇を設けむことを以てさほどの難事とも思はざるべきも、牧師等自身に取りては、全然容易の事にもあらざるべし。其の多年智識上の研究苦鬪によりてかちえたる敎理の中には、普通信者の常識をもてするよりも重大なるものあるべく、高等批評の廣く行はるゝ今日、諸先輩の意見も種々ありて植村氏の如き人によりて成る日本基督敎會は海老名氏の如き人に成る組合派を以て、自由神學に中毒したるものと見るべし

第三、經濟上の問題を見るに、多くの敎派はまだ外國傳道會社の補助をうけつゝあり、今、日本敎會にして其各宗派聯合して單一の敎會を形成するとせば、從來其の宗派によりて補助し來りし外國傳道會社は大なる困難を感ずるに至るべきは當然の結果にして、經濟上より云へば各派同盟をなしたる方宜しからんも、同盟てふ事につき外國傳道會社の贊同を得ざるべからざるべく、又これに於ても神學上離問題の起るべきを豫想せざるべからず。

以上は基督敎派同盟に伴ふ困難なり、然れども目今日本の宗敎界に於ては何等かの形にて敎派の聯合する事は一般の期待する所にして極東の史上に今日程從來の敎派が勢力を失したる時はなかるべく人權を重んずる個人主義は近代の科學、哲學によりて一の新らしき社會を形成しつゝある折柄、舊き宗敎が全然舊來の條理を改むるにあらざれば、此場合に處し、新時代の勢力として其の存在を保つことは最も難事に屬すると共に、又一方佛體禮拜、神體保存の如く、舊來の習慣に囚りつゝある一種の反動は、敎育の力が此の急務に處して効力なきを證する秋に於て、基督敎が立ちて此急を救ふの務めを自覺するは、決して早からざるべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歐米女學生の美風　其一

河井道子

○

日本の女子には我國固有の美風があると同樣に歐米の女子にも亦その國固有の美風があります。私が先頃歐米諸國を巡遊して、彼の青年會事業を視察致しましたと同時に女子敎育に就ても深く觀察したいと存じ諸學校を訪問し、或時は彼國の家庭に起臥し又或時は學校の寄宿舍に學生と寢食を共にいたした時もありました、よりて見聞した一部分でも感じた點に就て申し上げ御參考に供し度いと存じます。かくも都合よく親しく彼の諸學校に接する事の出來ましたのは、萬國基督敎學生同盟會本部よりの照會を得たからでありまして、只今この同盟會に加はつて居る國は三十ケ國ほどあります事を見ましても、世界的大運動である事が明かで御座います。

○

先づ英國の有名なるケンブリツヂ及びオツクスフヲード各大學地には數多のカレーヂが同盟して一大學を組織して居るのは讀者は御存知と存じます。ケンブリツヂには女子大學の大きいのが二つありまして一をガートン、一をニユーマンと申して各寄宿舍があります。私はガートン大學の寄宿舍に三日間を生徒と共に過しましたが、見も知らぬ外國人をまるで舊知の樣に親しく眞心より歡迎して呉れましたから、少しの淋しさを感じないのみか、彼等女學生の日常生活の一般を窺ふ好機會で御座いました。

この寄宿舍は、學校より殆ど一哩半程隔たつた地に在りますが學校への往復に自轉車を用ゐて居ります降雨の時には學校より馬車を差し廻されますので、少しも不便を感じません、概して英國は年中晴天少なく殊に秋は雨が多量に降ります故か、日本人の樣に雨を恐れません。從つて雨具の用意も單純で周到して居ります。

○

私が逗留して居ります時、丁度學校に以上述べし三校間の討論會が開かれ、それに招待されました。斯る討論公會は一年に一度、或時は二年に一度開催されるものだそうです。其會では一校より二人づゝ、論者が選ばれて、一名の會長の指揮により、死刑

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

處すべきか如何てふ題目の下に論じ合ひましたが何れも皆識見廣深首尾整然騒がず驚かずしての熱心は唯々感服の外ありません。實に其の論法其の態度到底日本の女學生の及ばない所であります。かくて討論者が濟みますと會長は立つて之を公衆に許すと宣告しますと、傍聽席からは教授となく生徒となく立つて論じますが、論方制度に反した者は會長之をのぞき、次々に指名しますが、この時立つて立派に討論した者二十八名の多きに上りました、其上勝負は共に潔くすべしと常々教へられてありますから、負けた方も共同して潔く負け勝つた方でも之を誇るといふ態度は少しも見えません。いよ／＼會が終ると女學生許りのダンスがあり、五樂器位の伴奏があります。して其間に茶菓を呈する等皆教師を煩はしません。一般學校の氣風は古雅で學生間の友情も至つて美しく社交に長けて居ります。

○

彼等女學生は又大變體育を重んじますから、よく散歩します。外出を苦に致しません、從つて身體は強健であり、活潑であります。しかし體育のみならず知育德育共によく重んじますから熱心に勉強します。又神を畏敬する念は非常に富んで居ります。英國は面積は本國だけでは小さいものでありますけれど、領地を大陸に持つて居りますから大陸的氣象に富み、女學生でも印度の事情等に就ては委しく知つて居ります。其外參政問題にも非常に趣味を持つて居ります故深く研究し、歴史憲法等にも委しくあります。其他實地問題例へば勞働社會慈善的事業に目をつけて居ります爲に卒業後社會の事情に疎しとして冷笑さるゝ事は少いと思ひます。

○

オツクスフヲードの或學校にまいりまして、私は一週間泊めていたゞきました、或時は客間をあけて貸して下さつた時もありますし、又或時は學生が自分は他の友達の部屋に一緒になつて自分の部屋をあけて貸して下さつた樣な親切を受た事も御座いました。是等外國人に對しての待遇に對し。先生は別に指圖をするのでもなければ、とがめもしません。彼等女學生間に自然と習慣的になつた美風と見て好いと思ひます。前の自分の部屋をあけて貸して下すつた方は自分の用具は一切元の儘そこに置くのみならず机の上には筆墨紙等を丁寧にのせてあり、其上郵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

便の切手まで備へてありますから、何時でも手紙は自由に出せる様になつて居りますのには少なからず感心いたしました其上自分の貴重な品例へば寶石が入れてある處までも敎へこの指輪は友人の贈物この時計は誰某の形見などゝ打明けてくれる、其他人を信じて居る事にも驚きました。

○

マンチエスター及びバーミンガン等の地にも種々なる專門學校がありまして女學生は主に化學を眞面目に勉强して居ります。故ビクトリア女王御在世の折設立されましたローヤル、ハロエーカレヂといふ學校がありますが、この寄宿舍では一人で部屋を二つ或ひは三つ持つて居りまして、書齋寢室應接間などゝそれ〳〵分けて用ゐさせて居るのは家庭的生活を實地にさせたい主意からだそうですが其中にも質素の風と整然たる規律と和氣藹然の美風は羨しく思ひました。

信仰雜話

白井胤祿

信仰厚き婦人の傳記をものす積りであつたが、障ることありて之れを果す隙を得なかつた。其れで婦人の信仰雜話を幾つか集めて、宗敎的生活の助けにしたいと思ひます。

△信仰と現實生活

ウヰリアム、ロオの『儼かなる召命』と云ふものゝうちに、ミランダといふ婦人のことが書てある、富貴にして身分も高きものであつたが、何事を爲すにも、神は之を如何に用ふることを望まるゝか、其の望まるゝ所を如何にして最も善く遂げやうか、短き生涯を如何にせば最も善く、又最も樂しく送ることが出來やうかと云ふことを第一に考へた。彼女は常に耶蘇が無くてかなふまじきものは唯一つなりと云はれたことを心に留め、全生涯を通じて絕えず此の一事を勉めて居た、事を爲すにしても、爲さぬにしても、好むも、好まぬも、唯だ一つの理由に置いて之を決した。其の理由とは即ち神の聖旨の如何と云

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふことである。彼女は神と隣人と自身とに對する責任を區別して考へない。いづれも皆な神に負ふところあり、其の名によりて爲さねばならぬ責任であると考へて居たのである、是れはウヰリアム、ロオが眞正の基督者たるに適はしい美しい貴婦人と賞讃したミランダの心懸けであつた。信仰の生涯とは耶蘇が見られて無くてかなふまじきことをして居ると云はれるやうな生涯である、或る人清教徒を評して、今日の敬虔なる男女が心を熱くして祈る瞬間に感ずる所のものを、古への敬虔なる清教徒は第二の天性の如くに感じ、起き出づるにも、寢るにも、商賣の場處にも、家庭にも、社交にも、業務にも、國會にも、戰場にも、あらゆる場合に然う感じた、今日の敬虔なる人が神の前に跪きたるとき、若くは臨終の際に感ずることを、彼等は日々の生活に於て感じたと云つた。信仰と現實生活とは別物でない。理想と實際とを統一するものは基督教の力である。

△神人の神秘的契合

西班牙の聖女テレサは宗教上の經驗の非常に深き人で、其信仰上學ぶべきことが甚だ多い。時を得て詳しく其の傳記を紹介したいと思つて居るが、此には只だ彼女の信仰の中心となつて居たものを記す、彼女が潔い生涯を送らんと欲して天主教の修道院に入つたのは、齡十六のときであつた。然し預ねて蒲柳の質であつたから、其の難行苦行に堪へるのは隨分苦痛であつた、其の上精神上の煩悶もあつたので日々重荷を負へるが如き心持をして居つた。其のときの唯一の慰めは祈りであつた。而して祈りに由つてまた彼女は神に近づき、神は常に限りなき同情と慈愛とを以て倶に在すことを悟り、其の間に神秘的の濃かな交情が現實になつて來た。彼女は宛から基督と精神的に結婚したものゝ如き心持で、之を戀ひ慕ふの情が切であつた。其の眞情を歌つた讃美歌のうちには「我が愛しまつる救主よ、主在まさずば、此世に生くるとも、我は之を生くるとは云はじ」と云ひ、又「汝を離れては生くること能はず、我が永遠の愛よ」とも歌つて居る。此の熱情に由りて彼女の心は充實し、喜びに溢れて居た。

『我は廣き野より籠にとざゝれし小鳥なり。
されど我は此の籠の中に座して、
我を此所に置きたまひし神に向ひて歌ふ。
よし獄に入れらるゝとも之を喜ばん。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我が神よ、之を以て汝を喜ばすべければ也。

鳥のことで思ひ出す話は、曾て或る婦人が病ひに罹つて久しく病床に就いて居た。窓のあたりに駒鳥の籠を懸けて、其の美しい聲を聞くのを樂しんで居た。或る日一人の友人が見舞ひに來て、種々の物語の末「貴方は何故駒鳥を其んなに愛しますか」と尋ねると、婦人は靜に答へて「外の鳥は雨天の日には聲を收めて囀りませんが、駒鳥は其のやうな日になると平生よりも一層美しい聲を張り上げて囀ります私は之に勵まされて日々病ひの苦惱を慰めて居ります」と云つたさうである。彼の婦人は非常に信仰の厚い人であつたから、基督者は駒鳥が雨の日に一層立派に囀づる如く、苦痛の日や不幸の時には心の態度を一層立派に持つて、信仰の歌を歌はねばならぬと考へたのである。實に基督者の心の緒琴は、雨の日や、暴風の時に、美しい旋律を奏するのである

△憧憬と品性

人には美しいもの淸いものを仰いで、之に憧がるゝ心がある。信仰は一面から云へば此の心の作用である。或る人は哥林多前書第十三章（保羅が愛を說いた有名な文章）を一週間に一回づゝ三ヶ月間讀み續けて、其の生活を一變するに至つたことがあるさうである。人の道德的憧憬心を親切に培養して、適當に之を刺激するときは、其の品性は驚くべき發展をなすものである。然し只だ美しく高き理想を仰ぎ望むのみならず、其のやうな人格に觸れて之に憧がるゝに至つては更に大いなる感化を受くるものである。マァク、ルウサルフォドの書に一人の老人の話がある。彼は二十歳ばかりのとき倫敦で一人の婦人に邂逅つた。只だ一瞥したのであるが、終生其の面を忘るゝことが出來なかつたと云ふことである。其の後彼は他の婦人と結婚し、小供も出來たのである然し曾て逢つた婦人の面は常に彼を去らず、年を經るに從つて益々其の輪廓も明かになり、其の腦中に描いた理想の美人に心中を訴へまたは思ひ惑ふことについて判斷を請た。かくて色々の危險から救はれたとある。ダンテのビアトリチエに於けるも之に似たところがある。男女の間の愛情は時として一瞥のうちに成り立つことがある。神と人との愛情もまた然うである。かくして之を慕ひ、之を思ふの情の切なるに從つて、其の品性も次第に聖化せられるのである。曾て品性の優れて美しい一人の淑女があつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其の友人等は如何して斯んなに立派な心ばへを有つやうになつたのであらうかと怪んで居たほどである然るに彼女は常に其の頸に黄金の小函を懸け、何人にも之を開くことを許さなかつた。一日或る機會に一人の友人のみは、此の秘密の函を開くことを許された。而して其のうちには『まだ見ぬ方を我慕ふ』との文字が書きつけてあつたそうである。此の秘密が彼女の美しい品性を形造らせたのである。まだ見ぬ方とは即ち主耶蘇基督である。是れは總ての基督者の秘密である。基督者の生活は耶蘇の人格に觸れて、之を慕ひあこがるゝところから、神秘的の契合が出來、其の愛の力に淸められ、また高められるのである。

△聖書の力

英國の北の方に住んで居た一人の寡婦の話がある其の一人の息子は母親の注意深い敎育の下に育ちながら、何うも心懸けが善くなくて、常に母親の重荷となり、十字架となつて居た。別れるとき母親は自分と息子との名を記した新約聖書を與へて、何うぞ之を大切にして、私の爲めに讀んで呉れと懇ろに云ひ聞かせた。其の後息子は何處へ往つたか、更に行方が知れず秋も過ぎ春を送つても、風の音信だにない。幾年か經つて見すぼらしい一人の水夫が一夜の宿を求めた。寡婦は我が子のことを思ひ、水夫などには非常に同情を寄せて話して居た。其の日も憐れな水夫を留めて色々身の上話などを聞いた。

水夫は話の末、海の上で暴風雨に逢つたり難破船の辛い目を見たことは幾度もあつたが、其のうちで數年前に出逢つたものの位みぢめなものはなかつた。船は沈没して了う。乘組員で助かつたものは、自分の外に若い美しい紳士だけであつたとて、『私共は波に漂ふて居ましたが、到頭名も知らぬ離れ小島に持つて行かれ、一人の紳士は七日七夜の後其所で死んで了つた。氣の毒なものでしたよ。私は何うしても忘れることは出來ません』と云ひ涙をはら〳〵と流した。『其の人は晝も夜も小さな書を讀んで居ました。それは何んでもお母さんから貰つたもので、難船のときに只だ其れだけを持つて逃げたさうでした、常に其れを手離したことなく、自分の犯した罪を嘆いたり、思ひ迫つて祈つたり、また其の書に接吻して居ました。其の書のことゝお母さんのこととの外は何も話しませんでした。最後に其の人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は私の不行屆な世話を非常に喜んで、其の書を私に呉れました。其の人は「此の書を上げる。何うぞ大切にして讀んで呉れ、神が君を惠まれる。これは、私が持つて居る總てのものだよ」と私に云ひましたそして私の手を握つて、安らかに死にました。

「それは皆んな眞實ですか」と驚き怪んだ寡婦は問ふた。

「まつたくです」。

水夫は衣嚢のうちから汚れたり摩り切れたりした小形の聖書を取り出し、

「これが其の書です」

と叫んだ。寡婦は之を手に取つて表紙を開けて見ると自分の手續で、我が名と息子の名とが書いてある之を眺め、之を讀み、且つ泣き、且つ喜んだ。そして此の貴い遺物を手に入れたいと思ひ「此の書を私に下さいませんか」と問ふた。水夫は答へて、

「否え、金錢でも、世界中の何物でも之に換へることは出來ません。臨終の際に呉れたものです。其の後私は自分の持つて居たものを皆んな失くしたこともありますが、此の寳だけは大切にして居ります。また此の書の價値を自分でも學びましたから、呼吸のある間は決して之を手離すとこは出來ません」と云つたさうである。

美しき少女の幻　(其の一)

小石川の目白坂を上りきるとすぐ、櫻の木立の間に、希臘式の白堊の建物が見える。これは天主敎の會堂であります。此處の後庭に會堂の高さをも凌ぐ程の洞窟がいつの間にか出來て、道行く人が、築地を越して、爪立ち見ては、何であらうか、何であらうかと云ひ合つて居りました。この五月二十一日に、此處でルヽド洞窟の聖別式が行はるゝと云ふので、さてこそと私は始めてこの門をくゞつて洞窟の前に立つて見ました。

仰ぎ見るとこの洞窟の凹所に野薔薇咲き、其處に白衣の念珠を手にした神々しき婦人の像があります。傍らに「泉に往きて飲み且つ洗へ」と朱書した御影石の水道があります。私は入口で渡された「ルヽドの洞窟」と云ふ小册子によつてこの由來を知る事が出來ました。

それはこうであります。今から五十三年前に、佛蘭西の「ルヽド」と云ふ小さき都會に添ふて流るゝ小河に、貧しき水車屋でありました。その家の一少女ベルナデッタと呼ぶは、身體虛弱であつたが、また非常に敬虔の念の深い子供でありました。或日薪を拾ふ爲に河端の洞窟の所に來ました所が、あやしく、恐ろしい響きが致します。風であらうかと思つたが木の葉はそよとも動かず、四邊は寔に靜かであります、やがて眼を向ふの洞窟の方に廻すと、洞窟の上方の巖にある窪みに燗々する光が見える、凝視て居る中に、其の光りの中に人間以上の美しさで、神々しい、氣高い天女のやうなお姿が現はれました。ベルナッタはその神々しさに打たれて、殆ど失神するやうになつて居りましたが、其の時彼の美しき御婦人が其の御手なる念珠を以て聖き十字架の印をなし給ふたので、ベルナッタも同じく其の貴い印をすることが出來ました。この祈禱が終ると間もなく、そのお姿は消えて終ひました。(以下二十四頁の餘白に續く)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文苑

急せれる友に

友より

人は頭寒足熱でなくてはいけませんとある人が云ひますよ。少しとはいはず澤山お遊びなされ、お遊びにお出下され、今緑の若葉が天鵞絨の様に美くしいではありませんか、兎角もの事は急せると事を為そんじますよ。泣きもし笑ひもしてゆるゆる靜に歩みませう、今朝手水鉢のそばの南天の枝に蓑の蟲が五分にも足らぬ小天地に、滿足げにねむりこけてゐるのを見ました。煩鎖な人事から忘却と脫俗の姿がたゞ羨しかつた。併しどんなものでせう。

朝日さす若葉の影に蓑の蟲は
こゝろ足りてかねむり眠むれる。
わずらひの波もとゞかぬわだつ海の
そこひのごとくねむりに落ちぬ。
はしたなし子等はしたなししりぞけな
はかなき人の香をこそいとへ。
朧銀にばらの香のする初夏の
雲こゝ地よし仰むく胸に。
地のしめり肌に泥みて蟲や這ふ
汗ばむ顏に罌粟の香のする。

御笑草に。失禮。

友

紫嵐

（ある夜）

「道さん！……」

低い透つた、聲が窓の下に聞えた。窓を、そつと開けて首を出すと、青葉の蔭に、わざと月の光を避けて、立つて居る小夜さんの、豊かな、頰が葉陰にもほの白く艶に見へる。

「行く？」

「エー　今！」

少しの間すべて、死んだ樣に、動かなかつた。突然、「アデユー」(adieu)と、忍び音にさゝやいて、小夜さんは、青葉から漏れる弱い月の光を浴みながら靜に歩み初めた。

自分は強い電氣の光が、むごい樣に感じたので、消して、カーテンを上げると、小夜さんを照してゆ

く月の光が音なく流れ込んで來てボッと薄く自分の影法師を畫き出した。

（その日）

「身體が無事に家に着きました」と、小夜さんらしくない、鉛筆の走り書の葉書を、自分は、幾度も、繰返して深い息をついた。

今夜、小夜さんは、ダイヤの光るリングを、藥指にさして貰ふのである。自分は赤い電氣の光の眩ゆい立派はお座敷にしかつめらしく、並んで居るお鬚のいかめしい伯父樣や、亡き旦那樣とお家の爲とのみ心を痛ませて居るお母樣や、もう、覺悟を定めて、目を閉ぢて俯いてゐる小夜さんなどを思ふて、何故世は、かくばかり、つらいものぞと今更のやうに悲しくなつた。

亡なつた、お父樣の爲、潰れたお家の爲小夜さんは、祭壇に捧げらるゝ小羊となつた。小羊は義理と恩愛の二つの綱を首にかけられて、從順しく曳かれて行つた。その濃い冷い血の貴さを知るものは誰もない。

廊下へ出ると雲の多い空を月が少さい星一つ連れて急いで東の方へゆく。

（次の日）

十六夜のやわらかい、月の光の中に、坐つて小夜さんが家へ歸る日に、挿して行つた、机の上の麗美人草の眞紅な色を、ジーッと、見て居ると、丁度私の息で散つた樣に、風もないのに、落ちた、小夜さんの心の底に咲いた、名の知らぬ花のそれに、似て居る樣に思はれて、妙にいぢらしかつたから、ソッと落ちた花瓣を千代紙に包んで其上に、

紅の花はもろきぞよかるべき
その紅を永久の命に

と書いて小夜さんに送つてやつた。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊

一週間目の夕方、小夜さんは、いた〳〵しい目をして歸つて來た、小夜さんの長い睫毛の陰に、小さい眞紅な花が散る事も、出來ないで、萎れてしまつて居るのを見て、その冷い手を堅く握つたまゝ何も云ふ事が出來なかつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

近世美術

大森安仁子

△近世美術は十五世紀に於て根ざず

近世と稱すると雖も現代の美術を意味するのではなく、直に中世紀に連續せる時代の美術に就て語らんとするのである。此時代の美術は初代基督敎美術と大に其趣を異にし、寧ろ現代の美術に近かいもので、要するに近世美術は十五世紀に起たものと認めて誤りなきものである。

讀者は基督敎美術は其の初め、甚だ素樸なる技術に依りて其思想を現はすに努めて、次には嚴密なる規則の拘束に依りて美術家の思想の自由なる發動を制せんとする時代のあつた事を記憶せらるゝであらう然るに今や十五世紀となつて所謂文藝復興の時代となり、文學も美術も古來の傳說の縛を脫して自由の光明を認むるに至た。玆に於て美術家は萬有に接して之を觀察し、其感動する所を意の如く發表するの機運に到達したのである。

繪畫と實際生活の近接

先づ彼等の活眼に映した處のものは人體た、而して彼は其の見る所に從ふて寫さんとし、漸く光線强弱の美を發達せしめ伴ふて花鳥山水の畫題が採用せらるゝに至た、遂に人性情緒の發動の美を感じて之れを畫中に收むるに至た。即ち凡そ是等を綜合して以て基督敎的精神を現すの道を講じたのである、其材料の夥多なると思想の豐富なると其技術の進步せるとは遙に前代に超越する所である。例へば彼等は聖母と其愛兒とを畫かんとするに當りては實際の母と子とを捕へてモデルとし或は山水を背景として綠葉百花の間に配して居る。而して常に繪畫の美に依りて高尙なる思想を現し人をして尊崇の念を起さしむるに拘らず、尙ほ且つ其聖母と聖兒の畫に接して直に一般世俗の母子に連想を及ぼさしむる所のものがある。使徒の傳記或は聖書物語の畫に於ける亦同樣である。

斯の如き傾向は愈發展し來りて實生活に近接し遂には實生活が直に畫題となるに至た。其當初には父母と其子との畫を稱して「聖なる家族」の畫と呼で居だが實は時代生活狀態を寫したのである。即ち當時の風俗習慣を寫し、時としては畫者自ら友人と共

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に其畫中の人者となりて居る。

△油繪技術發明せらる

恰も此時に於て油畫の技術が發明せられ、其ドローイング及びコンポジションの進歩に加ふるに色彩の淡濃及び光線の强弱を以てし一大發展を遂げた嘗て希臘に彫刻黄金時代があつた如く此時代は繪畫の黄金時代と云ふてよからう。當時の美術家は巨人の如く他の凡ての時代の美術家の上に卓越して居る伊太利は其先進國であつて十六世紀に於て其發達の項上に達し爾來漸く衰退に赴いたのである。

△ミカヘロ、アンゼロ

當時の美術家中、ミカヘロ、アンゼロ、ボナラチの名は不朽の文字を以て大書す可きものである。彼は彫刻家としては希臘以後最も大なるものであり、其繪畫に於ては前後其比を見ない。其他建築に於ける土木に於ける一として頭角を顯はさゞるはない。彼は其市の治者や法皇や佛國王其他權門の寵を專らにするも、終生美術に忠にして敢て彼等の歡心を迎ふることをせず、誠意誠心、全く美術の外に、志しはなかつた、又彼は長壽を全ふしたが、其間終始單純なる生活を營み、刻苦勉勵し其業を樂しみて侈奢を退けた。

故に往々にして彼の美術を愛し彼をして自己肖像を畫き、或は彫刻せしめんと欲する者をして嫌はしめた。しかも彼の性格は甚だ温和であつて、其作は最も優美なる感想を現して居る。且つ繁激間多くの詩歌を事として其温情を發揮して居る。

▲ラパエロ、アンジヨオ

ラパエロ、アンジヨオ、ダ、ウルビノも亦伊太利に於ける當時の大美術家であつた、彼はミカエル、アンゼロと其時代を等ふすれども弱年であつた、彼は其容姿の優秀なる才能の卓絶せる實に世人をして敬愛の念禁ずる能はざらしめた。傳る所に依れば、彼がフローレンスの市街を通行する時は多くの青年が其後に從ふて喜んで其使役に服せんことを冀ふたと云ふ、ラパエロは三十七歳を以て其生を終たが、其創作は現今に在る迄世界傑作中の錚々たるものである、其他伊太利には數多の美術家が現はれた、前二者は共にフローレンスの產であるが、他の市にも殆んど彼等に匹敵する處の美術家があつた、リオナドビンチ及びチシャン、ヂオーヂオネ、等は其主なるものである、彼等に就て知らんと欲せば其々、

寫眞或は模寫品に依りて學ぶことが最も便宜である

△十六世紀以後佛國パリスが美術の中心となりし迄

十六世紀よりして、歐洲の他の諸國にも美術發展の機運が迫て來て獨にアルブレクト、テアラーありホーランドに又獨立の流派起りて、是等は各別の章を要することである。此の發展の大勢中にはスペイン佛國英國等も皆與る所がある。而して最近過去百年間に於ては佛國は其先導者となつた、今日に於てはパリスは世界美術の中心となり、萬國の美術は此の所に輻輳して居る、故に今日の美術を知らんと欲せば先つパリスを學ばなければならぬ。此の驚く可き都府は其全部が既に美術的創作である。而して我々は殊にパリスと其建築及び美術と其美術家に就に研究する所あらねばならぬ。

生くものをして生かしめよ
とこしへにたのしく
ああいとうましこの生命
ありとあらゆる官能の
なさけこころもすべて
ああいとよくも叶へる。

ブラウニング

一一

美はしき少女の幻 其の二（十九頁の餘白よりつゞく）

ベルナッタは一度仰ぎ見し、その神々しきお姿に引きつけられて、其の後幾度もその洞窟を訪ひ、いろ〳〵のお告げを聞いた、或日この美はしき人は「吾娘よ、泉に往きて水を飮め且つ洗へ」と宣はれた。ベルナッタは其の邊を見回したが泉がない、けれども何處までも其の仰せに從はうと思ひ、手を以て地を掻き、小さき穴を掘つた所が、果せる哉、水が湧いて間もなく穴に滿ち、暫らくして穴より溢れて流れるやうになりました。少女はその水を掬んで飮んだ所が神々しき御方は慈愛籠れる目を少女に注ぎて、いと御滿足氣に見えた。これより先き、ルヽドの町の者は、この不思議の出現は、聖母マリヤならずして何人ぞと云ふ事で、非常の評判となつた。今また俄かに泉が湧いたと聞いて、これぞ、聖母の限りなき慈愛の籠れる靈泉であらうと云ふ事に、最初不治の眼病者が先づ、この泉の水に眼を洗ふた、然るに不思議にも立所に癒えたと云ふので、我れも我れもとこの靈泉を汲み、病氣平癒を祈つたが、その効顯は實に著しいものであつた。……その後世界何れの處に於てもかやうな由來を知つてルヽドの模造が出來れば、聖母マリヤの御守護を受ける事が出來ると云ふので、天主教のある所には、必ず造られる。然し此處に建てられた如く、その形狀も寸尺も寸分たがはぬ模造は、極めて少い……

かやうな由來を知つて、私は目を上げて、更らにこの像を仰いだ、信仰を離れて單に小女の幻として見ても、この幻を仰ぐ間は、心いと淸く安かである。私はひそかに美しきこの幻を生んだその背後の圖柄を慕はしく思ふた。會堂からは讃美歌がきこえる序に添えます。この日水道に充たされた水は、わざわざルヽトから取寄せたものださうです。（編者）

基督教生活の情調

柏井生

（「エペソ書第五章一節より二十一節迄を解釋す。、、、を附したる部は余の私譯なり」）

一爾等愛せらるゝ兒女の如く神に倣ふべし。二又愛を以て行ひキリストの我等を愛し我等に代りて己を禮物となし犠牲となして神の前に馨香あらしめんとて献げ給ひしが如くすべし。

一されば汝等愛せらるゝ小兒の如く神に倣ふ者となれ。二又愛のうちに歩みキリスト我等を愛し我等の爲に己を與へ神の前に供物となし犠牲となして馨しき香あらしめたるが如くすべし。

倣ふはまねることとなり。神に倣ふことは空漠なる事の如く思はるれど其時は『父の完きが如く汝等も完くなるべし』と敎へ又己の事を語りて『子は父の行ふ事を見て行ふの外は何事をも行ふこと能はず』と云ひ給へり。愛子の道はたゞ愛を受くるに止まらずして親に見習ふにあり。倣ふものとなれと云ふは倣ふべしと云ふとは同じからず。馬太傳。四十五に『天の父の子とならんためなり』とのなすと同じ。人は改まりて神に倣ふものとならざるべからず◎キリスト我等を愛し、我等の爲に、舊の譯もこの通りなるが、ウエストコットホルトの原本には『汝等を愛し、汝等の爲に』となし『我等を』欄外に置けり。ワイゼッケル譯は兩方を我等となせり。この方自然なれば、之に從ふ◎供物と犠牲は嚴密に區別し得べからず。前者は血なき物即ち穀物等を供ふること後者は小羊の如き血あるものを献ぐることとなりとは大體の區別なり原語は時により互に孰れにも用ふる故に嚴密に區別立たざれども二つを並べたればかく別つことを得べし。基督の犠牲となつて身を殺せしことを云へるなり。然してこゝは愛の最高の模範として基督の死を語れることとなるが。一の大なる思想現れたり。即ち基督は我等に代り我等が報ぐること能はざりし最も善き供物を神にさゝげて下されしと云ふことなり。馨しき香あらしめたるとは基督の供物の神の前に價ありて神之を嘉し受け給ふことを云ふ。昔の人の考にては嘉き供物、別けて燔祭

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とて獸を燒きて供ふる祭を供ふる時には其の香天に達して神之を受け給ふと思へり。されば舊約聖書終末記には『之を壇の上に焚きてヱホバに馨しき香を奉るべし』(四〇三十二)とあり。無論保羅は「メタフォル」としてかく云ひしなり。基督に馨しき香なる如く基督の信ずるものも亦香あるべし。哥林多後書二〇十五に『我等神の爲にはキリストの馨き香なり』とあり。昔の人は敷島の大和心を朝日に匂ふ山櫻にたとへぬ。基督者にも亦人を薫ずる香あるべし。

三 聖徒たるに對ふ如く奸淫および總ての汚穢たる事又貪婪ることを互に言ふことだに爲勿れ 四 淫辭と浮言と戲謔を言ふなかれ是れ宜しからざる事なり寧ろ謝することをすべし 五 そはすべて姦淫するもの汚穢たる者及び貪婪者すなはち偶像を拜む者のキリストも神の國を嗣を得ざることは汝等知ればなり

三 聖徒たるに適へる如く姦淫を總ての汚れと貪慾は汝等の間には名さすことさへなすなかれ 四 汚れたる行と愚なる談話と戲言も亦然りこれ皆宜しからず寧ろ感謝すべし。 五 姦淫を行ふ物汚れたるもの貪る者即ち偶像を拜む者はキリストと神の國に於て何の嗣ぐ所なきことは汝等の認めて知る所なり。

上に云へる如く基督者に薫りあるべきものなれば其の生活上に相應しと云ふ所なかるべからず。聖徒たるに適へる如くとはこの事なり。聖徒とはただ潔き者と云ふに止まらず、聖なる目的の爲に身を清献したる意なり。之が爲に先づ謹むべきは卑猥不潔なる言行なり、之を口にすることさへ避くべきなり、何となれば卑猥なる談話は人を害すること大なればなり。第四節は舊は淫辭と譯しあるを汚れたる行と改め譯したるは原文は言に限らず行を指せる文字なればなり。寧ろ感謝すべしとあるは古來の學者の中には之よりも廣き意義に解し上品なる清き話をすることと說明したる人あり又かく用ひたる場合も昔の文學に見ゆれども保羅かく用ひし事なければこは神に感謝する事に解する方力あるべし集りて愚なる話するよりも共に神に感謝し祈るに如かず◎貪る者が偶像を拜する者なりとは如何なる意なるや。貪る者は金てふ偶像を拜するものなり。崇拜すべき者を拜せずして拜するに足らぬものを拜する點に於て貪る者と偶像

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を拜する者は罪を一にす。キリストと神の國に於て何の嗣ぐ所なしと云ふはキリストの建つる平國の事業に與ることなく又其の福を享けること能はざるを云ふ。これは未來の天國に於ける事に限らず現在の事をも云へるなり◎認めて知る所　原文には知ると云ふ文字を二つ重ねある故其の意を傳へんためにかく譯せり。改正英譯の聖書には確に知るとなり居れり。されど原文と密に合はず。

六なんぢら人の虛言に欺かるること勿れ神の怒それ等の事に因つて背逆者に至るなり七是の故に彼等に與することなかれ。

六人をして空しき言を以て汝等を欺かしむることなかれ、神の怒此等の事によりて不順の子に加はるなり。七此の故に彼等に與することなかれ。

空しき言は虛言とはやゝ異なり。空虛なる言語の即ち眞實なくたゞ詭辨を弄する者なり。上には野卑なる言を戒めしが、ここには又徒に放言高論して眞意なきものを戒めたり。或る學者は此は哲學の議論を云ふと云ひ、或る人は猶太教的の信者なりと云ひ、さまざまに推測すれども孰れとも定め得る丈基礎なし◎不順の子　信仰の道を否定し之に反對するものを云ふ。

八汝等もと暗かりしが今主に在りて光れり光の子輩の如く行ふべし九そは光の結ぶ所の果は諸の仁ことと義きことと誠實の內にあればなり十主の悅ぶ所を辨へて之を行ふべし。

八汝等は嘗て暗黑なりしが今主に在りて光となれり光の子の如く歩むべし。九光の果は總ての善と義と眞に在ればなり。十主の悅ぶ所を驗すべし

舊の譯『暗かりしが』又は『光れり』は弱し。暗黑なりしもの光となれる意なればなり。光の子と云ふことはキリストの言の中にも『此の世の子は此の世に於ては光の子よりも尤も巧なり』とあり(路加十六〇八)、又ヨハネ傳十二〇三十六にも『光の子となるべき爲に光のあるうちに光を信ぜよ』とあり。不順の子とか光の子とか云ふことは聖書に多く見ゆる言ひ表し方なり。光の子の如く歩むべしとは光の子らしく世に處するを云ふ。上に聖徒たるに適へる如しと云へると一樣なり。光の果と云ふことはこの外にはあまり見へぬ美しき語なり。內なる光より生ずる道德上の美と云ふ。總てと云ふはさまざまの形を以て現る善と義と眞を云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふ。善と云ふは固より廣き語なれどもこゝは主として仁慈の意ならん、◎主の給ふ所を驗すべしとはキリストの御心に適ふことをよく〳〵吟味し研究することを云ふ、基督者の道德は或る誡律を守り行ふにあらず。活ける主イエスの御心を體し、其の嘉し給ふ所を考へて行ふなり。基督者の行の香りかゝる所より生ず。

十一汝等果を結ばざる暗行に與することなく反て之を責むべし　十二彼等が隱れて行ふ所の事は之を言ふだにも愧べき事なり　十三凡て責を受くべきことは光に由て顯はるゝなりそはすべてを顯す者は光なればなり

十一汝等果を結ばざる暗黑の業に與することなく反て之を責むべし　十二彼等が隱れて行ふ事は之を言ふも耻なり　十三されど總ての事は責を受くる時光によりて昭になるなり、すべて昭になるものは光なるなり。

基督者はたゞ世の惡しきことゝ汚れたる事に近かぬことゝ即ち暗黑の業に與せぬのみにては足るべからず惡しき事を責めそを正さゞるべからず。この數節はこの積極的方面に進み來れり。これを實行するはながく勇氣と親切を要する事なり。然してそを責むる事より生ずる善き結果を示せり。惡しき事にても之を責むる人なるときは既に光が注ぎ入りたるものにして其の眞相明になりたるなり。責を受くるとき光によつて昭になるなりとはこの謂なり。次に昭になるものは明なるなりと云ふは舊の譯『すべてを顯すものは光なるなり』と云ふとは意味異なるやうなり。こゝは責を受けて昭になりしものは其のもの既に全く暗黑の業にあらずして既に多少光の性質を帶ぶるものとなりたるなりと云ふ。

十五是故に云へる言あり寢ねたる者に目を醒まし死より起きよキリスト汝を照さん

十五故に曰く、眠れるものよ醒めよ、死より起きよ、キリスト汝の上に輝かん。

何より出てし引用なるか明ならず。イザヤ書六十〇一最も近し。同書九〇一及び二十六〇一も似たる所ありされど異る所もあり。或る人は外書即ち聖書に收められざる文書より引けるならんといひ又それは當時の讃美歌ならんと云ふ。語に節調あるを見れば或は然らん。上文との思想の聯絡は光

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云ふ所に存す。
十五然れば汝等謹みて行を堅くすべし智からざる者の如くせず智者の如くし 十六機を覗ふべし是れ時悪ければなり 十七是故に愚なる者と爲ことなく主の旨は如何にと識るべし

十五されば汝等如何に謹むべきか心を用ふべし、賢からざるものとなるなかれ賢しき者となれ。十六時機を購求むべし時悪ければなり。十七この故に愚なる者となることなく主の心如何と悟るべし。

十五節は如何にと云ふことに力をこめて見るべし如何に世に處すべきかと云ふことを注意の上にも注意すべし。愚なる者とならず、常に精神を呼び醒まして警戒をさ／＼怠るべからず。時機を購求むべしと云ふは原語に『時を購ふ』とあるを成るべく其のまゝに譯したるなり。時代悪ければ善き事を爲す時機を逸せざるやうに心がけ、物を買ふに價を拂ふて買ふ如く力を費し犠牲をなして時を見出さざるべからず。又賢しきとはたゞ己の知慧に依つて賢しきに非ず、キリストの心を知りて賢くなるべしそれ第十七節の主意なり。

十八又酒に醉ふこと勿れ之をなすは放蕩なり宜しく靈に滿たさるべし 十九互に詩と歌と靈に感じて作れる賦とを以て語りあひ又うたひて汝等の心に主を讃美すべし。

十八又酒に醉ふなかれ亂れ其の中に任り宜しく靈に滿たさるべし。十九互に詩と讃美と靈の歌を以て相語り又歌ひて汝等の心を主の前に奏づべし。

亂れと譯しある字は文字通りの意味は救はれざるものと云ふことにて墮落して取りかへしのつかぬ生活を云ふなり。酒に醉ふことより生ずること多し。酒に醉ふことと、靈に滿たさるとは悪しき事と善き事なれども、ともに或る他のものに滿たされ己を忘れたる有様に在ることに於て一致せり基督者の生活も亦醉える生活なり◎詩は舊約の詩篇を主とし他に聖書の外にも詩あり靈なる歌のうちには詩篇も讃美歌も含まれたれども一層廣し。聖靈に禮してうたへる歌なり。奏づとは主として絃樂に用ふる言なり。心の琴線を調へて主の御前に在る心をもつことなり。

二十凡の事につきて恒に我等の主イエスキリストの名に託て神即ち父に謝すべし 二十一キリストと異なる心を以て互に服ふべし。

二十總ての事のために我等の主イエスキリストの名に於て神即ち父に感謝すべし。二十一キリストを畏れて互に従ふべし。

感謝の念と相互に仕ふる精神は基督敎生活に缺くべからざる要件なり。

會の消息

◎日本基督敎女子青年會

△夏期修養會　前號「會の消息」欄にて、今年の夏期修養會に就て、既に委員會を開き、協議中の由記載致して置きましたが、愈々別項記載(三頁、四頁)の通り、略ぼ定まりました。どうぞ會員諸姉には本會の成績の有效ならんやうお祈り下さいまし、

△ミス、ケエルの歸國　本會幹事ミス、ケエルは過勞の爲め少しく健康を害はれ、醫師の勸告に從ひ、六ケ月間を期して休養の爲め歸米せらるゝ事となりました。二十八日夕東京出發翌朝敦賀より出帆せらるゝ筈であります。我れ等は同孃の回復を祈り再び本會の爲め盡力せらるゝ日の一日も早からん事を希ふものであります。

△ミス、マシユウの歸京　三月二十五日より四月間を期して、日本語研究の爲め前橋に赴かれたるミスマシユウはミス、ケエルの歸米につき、會務引請けの爲め、俄かに歸京せられ、夏期修養會開催等につき多忙なる昨今日々熱心に事務を鞅掌せられて居ります。

◎東京基督敎女子青年會

同會總會は既報の通り五月二十日牛込區納戸町なる女子青年會寄宿舎に於て開かれました。津田會長の挨拶及び報告につぎ、河井道子氏の歐米の女子青年會に就ての談話あり。ピアノ獨唱等によりて興を添え、會衆は茶菓を喫して快談せり。この日多くの新入會員を得たり。

◎大阪ウヰルミナ女學校女子青年會

四月の初め本年度の役員改選を爲す。その結果會長(補習科生)中田友榮、記錄書記(本科五年生)伊庭敏、通信書記(補習科生)細川鞠也、會計(本科五年生)朝田一、幹事(英語專科生)松井竹代副幹事(本科五年生)島田松枝、同(四年生)竹島糸、同(三年生)青山雪、同(二年生)水野文、同(一年生)田口一の諸氏と爲る。

其の他別に傳道員、祈禱員、親睦員、慈善員、訪問員、音樂員、矯風員、風紀委員、日曜學校委員等の各組に分たる。四月十日青年會の主催にて新入學

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

諸姉の歡迎親睦會を開く。ミス、アレキサンダーの青年會に就ての勸告あり。校長ミス、モーガンの訓話ありて後餘興數番あり、茶菓を喫し、談笑の中に親睦をなし、午後四時過ぎ散會せり。

四月十七日「組の一致」てふ題のもとに各教室に於て青年會を開く。次て四月二十四日午後三時中田會長司會の下に講堂に於て開催、この日の主題は「眞の親切」と云ふ事にてありき。司會感話あり、讃美祈禱の後自由時間に移り、數人の熱心なる祈禱、四五人の聖句朗讀あり、幹事の勸話ありて、得る所多く閉會せり。

◎小石川傳道女學校青年會

△四月七日久米田米子姉司會の下に經驗會を開く。二三の姉妹の經驗談あり

△四月十四日　ミス、ハラー司會の下に講話會を開く。ミス、ハラーの「キリスト十字架上よりの七言に就て」の講話あり。出席者二十名、内會員數十四名客員數六名

△四月二十二日　佐藤みよ子姉の司會の下に講話會を開く。同姉の「癒しの信仰」てふ講話あり、二三の姉妹の祈禱ありて閉會。出席者十八名内會員數十四名客員數四名。

△四月二十八日　渡邊けい子姉司會の下に講話會を開く。同姉の「信徒はキリストの兵卒なり」てふ講話あり。出席者十九名、内會員數十一名、客員數八名

◎本部事務所より

△愛蘭の基督教女子青年會長スミス夫人は四月二十八日本會を訪はる

△古倫母の名士　サー、ジョセフ及びレディ、ハッチェンソン兩氏は青年會の同情者なる由にて五月二十日本會を訪はれ組織事業等につき質問せられ事務所をも一覽せられたり

◎編輯部より

△本誌に掲げた「斯うしておけばよかつたと思ふこと」と申す問題にはなほ一兩名の御經驗談を伺ふ筈でありましたが、俄かに夏期修養會の事を掲載する事となりました上に、記事輻輳致しましたので、見合せました。なほこれを御覽の諸姉には、かゝる問題で、先輩諸氏の御話を伺つて、成る可く無駄のない生涯を送らるゝ樣御工夫ありたきものと思ひます。

△愈々夏期修養會の期も近づきました。休暇を有益に用ゆる第一歩として、今より萬障御差繰りあり、御出席のほど待ち上げます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廣告

院長診察（月、水、木、金、午前
（入院診斷後應需
松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋內科醫院

電話本局 八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長 醫學士高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱
從停車場半里
電チガサキ二番

南湖院

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

National Committee

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Sarah Ellis, Secretary
Mrs. G. M. Fisher, Treasurer
Miss Michi Kawai, Member World's Committee
Miss Sumi Miyagawa, Corresponding Member World's Student Christian Federation

Resident Members
- Miss A. B. West
- Dr. Tomo Inouye
- Miss Hama Hirano
- Mrs. Koharu Nakajima
- Miss Uta Suzuki
- Miss Tami Mitani
- Miss Tetsu Yasui
- Miss Matsu Okonogi.

Non-Resident Members
- Miss K. Tristram. Osaka
- Mrs. K. Araki, Osaka
- Miss N. B. Gaines, Hiroshima
- Mrs. Koito Saiki, Kyoto
- Miss M.F. Denton, Kyoto
- Miss Wynne-Willson, Nagoya.
- Miss Charlotte De Forest, Kobe.
- Miss M. Brownlow, Hakodate.

Miss A. C. Macdonald, General Secretary
Miss Margaret L. Matthew, Tokyo Secretary
Miss Mary S. Kerr, Office Secretary
Headquarters 41 Sanbancho, Kojimachi, Tokyo.
Miss Matsu Okonogi, Editor.

部數	定價（郵稅共）	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

廣告	
一頁	金六圓
半頁	金三圓五拾錢
半段	金貳圓
一行	金貳拾錢

明治四十四年五月三十一日印刷
明治四十四年六月一日發行

編輯兼發行人 東京市麴町區三番町四十一番地 エー、シー、マクドナルド
印刷人 東京市神田區美土代町二丁目一番地 島連太郎
印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三秀舍

同性のために憂うる諸姉は今此書を直に御讀みなされませ

救世軍大佐心得 山室軍平新著

公娼全廢論

『遊廓へ通ふのは男の自然の要求で、妾も男ならば通つて見ます』と仰有つたのは、才名高き某博士夫人の君であります。斯樣な事を仰有る人が、お歴々の中にあればこそ、今日まであの惡風が絶えぬのであります。此本はさう云ふ間違つた考を正すのには、最もよいのです。世の中の表裏から酸いも甘いも咬み分けた山室中佐が、誰か讀んでもナール程と感心するやうに、お書きになつたのです。

定價拾錢　郵税四錢
部數により割引

大阪教會牧師 宮川經輝著

人生の慰安

年の若い人々に、慰めと、喜びの光を與へる力のある說教は、宮川先生の說教であります。鋭い聲の低には、千萬無量の涙と、拔く可からざる重みとが潜んでゐます。先生の說教は、夜ふけ人靜まつ後に聞ゆる、天の音、地の音　夜の音のやうです。年が若ければ、不安がなくてはなりません。不安のある人は慰められなければなりません。

上製　壹圓
並製　八拾錢
送料　各八錢

日曜學校の光明

加藤直士編案

日曜學校教科教案

上、下二卷

歐米の最新教科書を參酌せる

上卷は一月より六月まで　本年一月發刊　定價貳拾錢　郵税四錢

下卷は七月より十二月まで　新刊　定價貳拾錢　郵税四錢

發兌　東京京橋區尾張町　振替東京五五三　警醒社書店　○同本郷支店

明治四十四年六月一日納本發行　（毎月一回一日發行）

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN.

Meiji no Joshi

Volume. VIII　　*June, 1911.*　　*No. 6*

Editorial　　Miss Matsu Okonogi.
The Summer Conference.
Women of Present-Day India.　　Miss Dora Maya Das.
Things which I Wish I Had Done.　　Mrs. Hana Ibuka.
Church Union in Japan.
Beautiful Customs of European Girl Students.　　Miss Michi Kawai.
Anecdotes of Faith.　　Mr. T. Shirai.
To a Restless Friend.
A Friend.　　Miss Shinobu Seki.
Modern Art.　　Mrs. Hyōzō Ōmori.
The Melody of the Christian Life.
An exposition of Ephes. 5 : 1-21.　　Mr. En Kashiwai.
Association Notes.

The Official Organ of the National Committee of Young Women's Christian Associations of Japan

（東京神田美土代町　三秀舍印行）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA